

- |                 |     |                     |     |
|-----------------|-----|---------------------|-----|
| ・巻頭言            | (1) | ・原稿募集のお知らせ・雑文       | (7) |
| ・教室をめぐる動き       | (1) | ・1993年3月卒業生の就職先     | (8) |
| ・教員の研究活動        | (2) | ・昨年度(1992年度)地理学教室予算 | (8) |
| ・1993年度教員在室時間割  | (4) | ・主要購入備品のリスト         | (8) |
| ・1992年度卒業論文主題一覧 | (5) | ・主要購入図書のリスト         | (8) |

## 巻頭言

### 地理学教室の将来に向けて

専攻主任 野口 泰生

大学が象牙の塔であった時代が去り、生き残りをかけた競争の時代を迎える中で、大学の一構成員である地理学教室が同じ課題を突きつけられていることは明白です。地理学教室に直接係わる諸問題のうち、1つは我が国士館大学地理学教室自身が抱える問題であり、もう1つは教室の外の問題と言えます。

前者に属する最大の課題は、地理学教室がどのような学生を育て、これを社会に送り出そうとしているのかという地理学教室の教育理念と将来像にかかわる根本的な問題です。地理学教室のカリキュラム構成やカリキュラム改革の方向は、この理念に裏打ちされている必要があります。地理学教室の限られた予算をどこに重点的に配分すべきか、また、今後どのような設備・備品を整備すべきか、どのような大学院構想を持つべきか、などという問題も、この理念と将来像に基づいて決定されなければなりません。

後者の問題は、直接我々が関与しにくいある種のもどかしさを含んだ問題です。例えば、「メイプル」に描かれた大学像と現実との落差の問題や高校の教育現場で最近ささやかれる地理に対する魅力の目減りの問題などです。今年も教育実習の季節に入りましたが、複数の実習生が母校で地理の代わりに日本史を担当させられ四苦八苦しているという問題は、世界史必修、受験科目から地理の除外といった近年の憂うべき趨勢から判断して当然予想されたことですが、しかるべき責任部署で、魅力ある大学像や日本の地理学における将来像を議論する場や仕掛けをつくるべきでしょう。

## 教室をめぐる動き

この4月に次の人事がありました。

<新任>

田渕 洋 先生 (本務校：法政大学)  
山口幸男 先生 (本務校：群馬大学)

第四紀学  
都市地理学

## 教員の研究活動

長島 弘道 教授

### <研究活動>

#### 口頭発表:

Rural Resource Management -A Case of Mountainous Areas of Tokyo Metropolitan Region-  
IGU変貌する農村システム委員会会議、1992.8、カンサス州立大学。

瀬戸 玲子 教授

### <研究活動>

#### 論文:

産業大分類別就業人口構成比の1965年～1985年における変化——三角ダイアグラムを使った市区町村別  
コロプレスマップの作成による考察——。お茶の水地理33号、1992。

産業大分類別就業者構成比の変化——1965年～1985年の関東地方を中心に三角ダイアグラムを利用した地図  
作成による考察——。人文学会紀要、1992。

#### 口頭発表:

産業大分類別就業者構成比の1965年～1985年の変化——三角ダイアグラムを使ったコロプレスマップの作成  
による——。平成4年度日本国際地図学会大会、1992.8、都文館学園。

#### その他:

研究発表要旨(上記のもの) 地図30-4、1992。

#### <委員会活動>

1992年4月～ 日本地理学会、国立地図学博物館設立推進委員会委員

1992年4月～ 農業土木学会、北上川水系農業水利誌編集委員会委員

野口 泰生 教授

### <研究活動>

#### 口頭発表:

1993 日本の気象官署における水蒸気圧の永年変化と都市化の影響について、  
日本地理学会春季大会

#### その他:

昨年、雑誌「地理」誌上で卒論コンテストが行なわれたのを知っていますか。全国から10数編の自信作が寄せられ、私を含む5人の審査員がこれを細かく審査しました。昨年の地理(37巻7月号96-102)にその結果を座談会形式でまとめてあります。どのように書けば地理の卒論として評価され、どのような書き方がまずいのかという点が具体的に示してあります。ぜひ、一読してください。

長谷川 均 講師

### <研究活動>

#### 論文:

『熱い心の島』— 日本のサンゴ礁地域2 —。サンゴ礁地域研究グループ編、  
古今書院発行の編集および解説執筆。

「サンゴ礁環境のデータベース化と時空間分析(Ⅲ)」(執筆分担)

近代化による環境変化の地理情報システム 平成4年度 総合報告書(Ⅰ)。217-224, 232頁。  
全3章のうち 第3章を執筆

#### 口頭発表:

「Study on color composit images of LANDSAT data and on-the-spot spectral reflectance  
for the interpretation of coral reef environments。」

7th. International Coral Reef Symposium. 26 June 1992. Guam.

「リモートセンシングを使ったサンゴ礁環境調査」

サンゴ礁計測研究会、計測WG. 1993年2月12日、地質調査所.

「空中写真と衛星画像によるサンゴ礁の経時変化の抽出」

日本地理学会春季学術大会. 1993年4月3日、立正大学.

「沖縄のサンゴ」 ダイビングフォーラム93. 1993年3月17日. 北海道北見市市民会館.

その他:

「長谷川 均」(アクアヒューマンライフ135)、

「DIVER」誌、1993年1月号. 93-97p. にインタビューが掲載された。

<近況>

- ・高知や石垣島のサンゴ調査が続いて落ち着かない。留守の間に愛娘はまるまる太り、杜チャンか天海みたいなスターにしたいという親の夢はかないそうにない。
- ・今年の「サンゴ礁夏の学校」は、色々な大学の学生が集まって奄美大島宇檢村で8月下旬に1週間の予定で実施します。参加希望者は早めに申し出て下さい。

内田 順文 講師

<近況>

「昨年は常勤1年目ということに甘えて、学位論文の提出以外にはほとんど研究らしい研究ができませんでした。今年はまだその手は通じないので、とりあえず小京都に関する論文を完成させたいところです。」と書いていたのがちょうど1年前。ところが、2年目もあつという間に過ぎてしまったという感じ、こんなことではいけないのですが。

★ ★

★ ★

★ ★

★ ★

## 1993年度 教員在室時間割

【凡例】

Na: 長島 Se: 瀬戸 No: 野口 Ha: 長谷川 Uc: 内田

————— : 在室時間または講義、 - - - - - : は在室していることが多い)

	校舎	9:00-10:30	10:40-12:10		12:50-14:20	14:30-16:00	16:10-17:40
月	世谷				No - - - - -		
	鶴川	Se = = = = =	Ha - - - - -				
火	世谷		Na = = = = =		No - - - - -		
	鶴川	Ha - - - - -					
水	世谷	Se - - - - -			Ha - - - - -		
	鶴川					Uc - - - - -	
木	世谷				Se - - - - -		
	鶴川	Uc = = = = =	Ha - - - - -				
金	世谷		Na = = = = = (4-6月) ※				
	鶴川		Se = = = = = (11-1月)				
土	世谷		No = = = = =				
	鶴川		Ha - - - - -				

※第3または第2金曜日は教室会議(12:30-)・教授会(13:30-)があり全員が出校しています。

- ・上記時間以外の面会、相談などはAppointmentによります。相談、質問などは教員の出勤中に済ませて下さい。
- ・教員の自宅、特に非常勤の先生宅への電話は極力ひかえて下さい。
- ・研究室の電話は、03(5481)3245(長島・瀬戸・内田)、3246(野口・長谷川)。
- ・文献・機材の借出・返却は、貸出簿に記入したのち、在室教員のチェックを受け、サインをもらってください。



## 1992年度 卒業論文主題一覧

- 1根岸雄一郎 埼玉県川越市における蔵造りの町並み保存について
- 2風間 志織 ランドサットTMデータを用いた都市熱環境に及ぼす緑地効果について
- 3酒井 浩一 川口駅周辺における現在と10年前の変化
- 4浅野 敏幸 厚木基地及び横田基地における航空機騒音の地域住民への影響について
- 5室井 孝幸 福島県白河市における家屋密度が気温分布に与える影響について
- 6館 将門 真珠養殖の内部構造とその現状 三重県英虞湾沿岸地域を中心に
- 8佐藤 重晴 駅周辺における放置自転車問題の現状と住民の意識 常磐線沿線(足立区・松戸市)を例に
- 11丸山 正貴 千葉県富津州海岸におけるリップルの形成について
- 12東郷 裕之 千葉市の京葉道路幕張パーキングエリアが周囲に与える影響について(小谷地形に与える影響)
- 13功刀 直弥 山梨県中巨摩郡白根町西野の複合型果樹産地の現状と今後の課題
- 14鍛冶沢嘉章 溝口駅北口周辺の再開発事業の必要性と可能性
- 16越猪友美子 河岸段丘の発達からみた琵琶湖西岸の地殻変動様式 和邇皮と安曇川の比較
- 18林 俊洋 神奈川県横浜市におけるウメノキゴケの分布と生育に最も影響を及ぼす要因について
- 19周東 俊行 埼玉県皆野町観光ブドウ農園の経営に関する調査
- 20関 孝弘 相模湾(藤沢市・鎌倉市・逗子市の地域)におけるより良い海岸地域づくりのために
- 21数見 篤 魅力ある地方都市づくり 富山県富山市を例に
- 22長谷川信二 都市景観の推進(浜松市と静岡市を比べて)
- 25飛田 浩一 道路交通法改正による茨城県水戸市における駐車場の現状
- 28室井 巧 暖冬年寒冬年における静穏形成と大気汚染危険度の気候学的評価 横浜市・川崎市を例に
- 29七澤 智憲 新潟県西部糸魚川海岸で見られる海岸線変化
- 30溝口 和幸 大分県別府市における竹細工産業の推移
- 31中野 貴裕 稲城市向陽台町における住民意識と周辺開発について
- 32野澤 雅章 水害による被害と住民の意識形成について 茨城県明野町の小貝川を例に
- 33三島 孝夫 新駅開業にともなう駅前開発の系譜及び変化 土地区画整理事業を中心にして
- 35手塚 将人 本州四国連絡橋開通が観光業に与えた影響 徳島県徳島市・鳴門市を例に
- 36牧 知史 函館市における観光業と都市再開発の必要性
- 38宮本 哲裕 北九州工業地帯の製造品及び構造変化
- 39金坂 治 千葉市中心地域の空間利用
- 41越石 達也 町田市北部の小起伏地における気温分布
- 42富田 真衛 神奈川県におけるコンビニエンスストアの立地状況 セブンイレブンを指針として
- 44松本 一 不老川における行政側と市民団体側の水質対策の違い
- 45佐藤 健治 名古屋市における地価状況について
- 46塚本 隆志 多摩川河川敷における帰化植物の分布と人為的影響の関係について  
東京都府中市・調布市・神奈川県川崎市を例に
- 47佐藤 浩士 諏訪湖流入河川宮川におけるリン・窒素の流下変化について
- 50添田 智則 埼玉県における自動車販売会社の営業所の分布から見た都市システム
- 51栗原健一郎 東京都秋川市における生産緑地法の農家と農地への影響
- 54瀬戸 優次 市原市北部における取水源別からみた家庭用水についての住民意識
- 55井上 宏昭 石垣島東・西海岸における海浜型と海浜堆積物の比較
- 56野本 幸男 埼玉県鴻巣市箕田地区における花き園芸産地形成の要因
- 58岩淵 直人 東京都野川流域自治体による雨水の地下浸透政策
- 61伊瀬久美子 ランドサットデータによる苫小牧樽前山麓の夏季異常落葉の解析
- 62阪 広昭 神奈川県厚木市における日最低気温時の気温分布
- 63袴田 賢 茨城県つくば市における住民の地域交流
- 64鈴木 栄一 国内の住民参加の緑を求める運動の動向 ナショナル・トラストを中心に
- 68飯森 直人 商業地としての品川駅前の現状 商圏を中心として
- 69佐々木明彦 三国山地平標山冬季風背側斜面における有機質土壌の生成変化期からみた斜面環境の変遷
- 72佐藤 真言 玉川・千川上水及び野火止用水を流れる二次処理下水の水質の距離的变化について
- 75高田 清一 新潟県佐渡小木海岸における海食ポットホルの形態と発達条件

- 76益川 正一 東京都府中市朝日町付近を通る国道20号の気温分布 特に交通量との関係について
- 77泉田 隆 羽越水害(1967.8.28)の経過とその後の河川改修
- 78大熊 智滋 東京都心部の立体化と空間的土地利用
- 79蔵本 悟 浦安市における大型店立地による既存商店街の影響
- 80生田 理和 観光地としての尾瀬の特性と観光ルートの把握
- 81谷口 雄介 江戸川の水質汚染に及ぼす坂川の影響
- 82海老澤 尚 甲府盆地南部における都市化と治水
- 83佐藤 巧 千葉県船橋市における土地利用経年変化  
中心地区の本町・湊町における主として都市的利用について
- 84木村 智彦 埼玉県における高齢化の現状 特に秩父市及び三郷市について
- 101勝間田 淳 東京都大田区における工場共同利用事(工場アパート)の展開について
- 102帷子雄一郎 長野県南佐久郡川上村における農業の現状と問題点について
- 105石田 泰 横須賀市の地域構造の変容について
- 107松本 茂樹 鶴見川流域における土地利用変化と洪水との関係について
- 108松元 裕幸 リゾート開発による地域振興の現状と問題点 「宮崎・日南海岸リゾート構想」での事例
- 117杉本 宏幸 静岡県三ヶ日町におけるみかん栽培 産地間競争の対応
- 120白石 英巨 神奈川県における海岸清掃の実態
- 124神田 英二 新潟県長岡市長岡ニュータウンにおける現状の把握と見通し
- 134後藤 茂樹 千葉市のSO<sub>2</sub>濃度変化について
- 137橋 常泰 東京都台東区浅草における盛り場の変遷
- 138黒崎 智一 千葉県柏市における自転車による交通圏について
- 139平間 俊秀 マリンスポーツの中のスキューバダイビングの現状と動向について
- 142櫻井 聡 神奈川県横浜港湾地域における沈没船及び放置船舶問題について  
港湾における船舶問題の現状を考察する
- 147富森 衛 山梨県甲府盆地北縁塩川流域の河岸段丘の形成とその発達史
- 148添田 浩介 都市に於ける自動車問題の分析と新たな提案(横浜都心部の路上駐車の実態を調査し、考察する)

以上 72論文

- ・3月におこなわれた全国地理学科卒業論文発表大会では、佐々木明彦さんが発表しました。
- ・1986年以降に審査された卒論のなかから、優秀なものや資料的価値の高い論文は製本され公開されています。年度別、分野別に製本された卒論は第2研究室で閲覧できます。学籍番号に梨地(●)のあるものが本年度の製本ぶんです。

付：1993年9月卒業予定者論文主題

- 712山口 喜弘 栃木県足利市における織物業の衰退と現状 新しい総合繊維都市に向けて
- 719二見 昭宏 多摩丘陵における集合住宅の立地 小田急沿線での1961年～1989年の変化を中心に
- 723三橋 弘喜 神戸の気温に特殊性を与える要因について

お原い！

地理学教室に置いてあった『20万分の1地勢図集』が、昨年より紛失しており、行方を探していますが見つかりません。すでに絶版になっており、買って補充することができませんので、借りだしたまま手もとに保管している人は、早急に教室まで送り返し(郵送し)てください。また、この他にも書籍や機材を借りたまま返却していない人が多数います。これから使う人たちのためにも早く返してください。

## 原稿募集のお知らせ

ニューズレターでは、紙面拡充のため、学生・OB・教員を問わず広く読者の皆さまからの原稿を募集しています。評論・随想・旅行記・俳句・雑文などジャンルは問いません。地理学教室の構成員を対象に自分のことばや考えを述べてみませんか？投稿を希望される方は原稿（一太郎形式のFDも可）を地理学教室の内田までお送り下さい。採用されたふんは次回ニューズレターに掲載いたします（ただし謝礼金などは一切ございませんので、あしからず）。ふるってご応募をお待ちしております。 編集部

雑文： おいしいものを作るためには

内田 順文

おいしいものを作るためには、つぎの三つの点についてそれぞれ腕を磨かなくてはならない。第一は、調理や調理法に関する「知識」だ。アクの強い素材はゆでこぼしたり油通しをしたりする、小骨の多いハモやコノシロは骨切りをする、メレンゲに砂糖を入れると腰が強くなる、等等、この種の知識は、自ら発見したり、人から教えてもらったり、そして書物を読んだりすることによって増やしていくことになる。料理に限らず、何事においてもそうだが、何はさておき知識がなくては何も行うことはできない。プロの料理人や料理上手のコツというの、大部分は知識のことである。料理に関する初歩的な知識はもとより、門外不出の秘伝にいたる種々雑多な膨大な量の知識を収集することが、おいしいものを作るための第一歩である。

とはいうものの、調理は頭の仕事であると同時に手仕事でもあるから、理屈だけではおいしいものを作ることはできない。第二、そこで必要となってくるのが調理の「技能」である。刺身包丁は引き切り、餃子の皮は中央へ向けて折り込んでいくことを知識として知っていることと、実際に包丁をふるってそれを行うこととは、当然ながら別の次元に属する。たとえ豪華な宮廷料理のレシピと調理法を完璧に覚えていたとしても、調理する腕がなければ、結局何も作ることはできないのである。技能は、人によって多少の素質の差はあるものの、結局は訓練を積むことによってしか高めることはできない。料理が職人芸であると、つい勘違いされやすいのも、調理の技能が長年の修練によって得られるものだからである。しかしながら、知識と技能だけでは、まだおいしいものを作ることはできない。むしろこの二つを習得することは、おいしいものを作るための予期的な段階であると考えられる。

そこで第三に、おいしいものを作るためのもっとも大きな条件として、「味覚」が登場する。センスと言ってもよい。味覚とは、料理の味を識る能力であり、しっかりした味覚なくしてはおいしいものを作ることなど不可能である。そもそもおいしいものを作るためには、「おいしい」とはどういうことかを知らねばならぬのであるから。優れた味覚は、これからどのようなおいしいものを作ろうかというときに、まず必要となる。調理の結果として作成される料理の味とは、いわば調理の目的であって、その目的のレベルが低くは、たとえどれほど高度な知識と技術をもっていてもこれを生かすことはできない。それ以上に、優れた味覚はできあがった料理の味を確認する際にどうしても必要であり、料理の目的として設定した理想の味と、現実の料理の味とを正しく比較することが要求される。これはなかなか難しいことである。味覚を磨くには、正しい知識に基づいてひたすら味覚経験を積むしかない。これには「技能」を磨くことに要する長い時間と、「知識」を身につけるのに払われるに匹敵する努力と手間が必要とされる。おいしいものを食べて舌に覚えさせるのは勿論、まずいものもたくさん食べてみなければならない。

よく、旨いものだけを常食とし、まずい物には目もくれない美食家がいるが、筆者はその考え方には同意できない。おいしい物に対しては、そのおいしさに対して当然与えられるに値する敬意を表すべきであるし、またまずい物に対しては、そのまずさを一つの経験として謙虚に受け入れ、少なくとも食糧としての尊敬を軽んずることがあってはならない、と考えるからである。したがって筆者の見解では、うまい物だけを食べているだけでは片手落ちで、まずい物も食べてみて初めて「おいしい」とは何たるかを知ることができるのである。無論、まずい物だけを常食しては、「おいしい」もの理解など遙かに遠いのは言うまでもないが、エスノセントリズムの代表とも言うべき、自国の食習慣に対する拘泥も極力排除されなければならないだろう。蛇や蛙や毛虫といった我々にとって未知の食べ物に対しても、先入観なしでとにかく食べられるようになる必要がある。

その点、おいしいものをおいしいと感じる健康な精神と肉体の保持こそ、まず第一に考えられるべきである。咽喉がからからのときは冷たい水が一番おいしいし、ひどい空腹のときには何を食べてもおいしい。逆に、煙草はどう見ても食事の味と香りをまずくする。つまるところ、筆者が目標とするものは、「おいしい」ものの価値と尊敬を正しく理解し、かつ「おいしくない」ものの存在意義をもちやんと認識する、食に対する実直な姿勢を持つことである。むしろそれらが料理人や材料や代金といった先入観に影響されないものであることは言うまでもない。朝に家人の作ったご飯と味噌汁の味を賞で、昼に豪華ホテルの正餐を正しく評価し、夜に立ち食いうどんの味を素直に受け入れる、そのようなオールマイティ変幻自在の食生活こそ理想である。

## 1993年3月卒業生の就職先

ここに示したデータは、学生から大学に報告された就職先です。業種、職種が特定できないものも多いので、1月現在の就職決定先の名称だけを掲載しました。

住友不動産ホーム 東急観光 福島市振興公社 (株)はせがわ 海上自衛隊 忠実屋 島忠  
 シンエイアームズ 三交クリエイティブライフ 東京三菱ふそう I・P・21 日本生命  
 トヨタ中古自動車販売 九州ジャスコ 千葉測器 興和 大和試錘 日産サニー湘南 山本商会  
 太陽信用金庫 山久山田 パリスパン店 JA黒磯 丸長産業 遠藤科学 中山機工 飯島工業  
 千葉トヨタ自動車 東洋シャッター ホリウチコーポレーション 大和探査技術 児玉化学工業  
 日本マクドナルド 第一建設工業 横浜エレベータ (株)タイトー (株)ピープル コナミ  
 三協フロンティア キハラ 東京消防庁 武蔵村山市役所 春日部市役所 前橋市役所  
 (この他の進路として、大学院進学(北大、明治大)、家業手伝い、などがあります)

★ ☆                      ★ ☆                      ★ ☆                      ★ ☆

## 昨年度(1992年度)地理学教室予算

	予算	支出	残	消化率
特別実習費	3,380,000	3,378,327	1,673	99.95%
校費	885,000	864,179	20,821	97.65%
研究費	2,289,000	2,204,986	84,014	96.32%
測量予算	300,000	299,560	440	99.85%

¥ 6,854,000                      ¥ 6,747,052                      ¥106,948                      98.30%

※研究費の残金 ¥84,014は、価格低下によりパソコン 2台が見積額より下回ったために生じた。この残金は流用できないため、文学部創設30周年資金へ供出された。また、¥1,000 未満の残金は流用不可として残った。

## 研究室購入主要備品リスト(1992年度)

- ・反射実体鏡 東海産業 TYPE 2039
- ・音響測深器 FUSO-150
- ・スライド映写機 (キヤノン44,290) 2基 世田谷鶴川用
- ・32ビットパソコン一式 FS 5
- ・32ビットパソコン一式 FX 2 2組 1組は鶴川用
- ・レーザープリンター式切替機込
- ・スパーフォーム(リボン実習用)
- ・水質・環境測定機器 (DR700)
- ・視差測定竿 2台
- ・トランシーバ 3台

## 1992年度地理学教室購入主要図書

### アジア経済研究所

- 朝鮮半島(地域研究シリーズ2)(谷浦編)
- 東南アジア:経済(地域研究シリーズ5)(堀井編)
- 南アジア:政治社会(地域研究シリーズ8)(佐藤編)
- アフリカI(地域研究シリーズ11)(吉田編)
- 中東:経済(地域研究シリーズ9)



朝倉書店

自然環境アセスメント指針  
リモートセンシング概論(土屋)  
地球環境の復元(大原他)  
地図学(高崎)  
測量学(中川)  
応用地理学ノート(松井編)

朝日新聞社

科学朝日キーワード検索

地人書房

景観の深層(水津)  
空間と行動学(寺坂)  
中近世都市の歴史地理(足利)  
日本の都市体系研究(阿部)  
絵図のコスモロジー(上下)(葛川絵図研究所)

地人書館

炭酸ガスと地球環境の変遷(長尾他)

平凡社

風土の地誌(式)  
サンゴ礁の自然誌

北大図書出版

北海道の自然史

河出書房新社

地図を作った人々(ジョン・P・ルウィルフォード)

講談社

都市と地図情報システム(マップ・インテグレーション研究会編)  
地図の歴史(織田)

古今書院

地域と景観(地理学講座4)  
太平洋ガイド(牟田)  
人間的尺度の地球環境(福岡)  
新版図説環境地理(福岡)  
地域と景観(中村他)  
基礎からの交通地理(木村)  
アジア・太平洋新時代(諏訪他)  
関東平野の平地林(大井)  
大都市消費者行動論(生田)  
都市(服部)

推薦図書リスト(図書館にあります)

アジア古地図集(12-19世紀)  
皇国総海岸図全3巻  
復刻版国土庁の土地分類図  
日本列島二万五千分一地図集成 関東地方  
日本列島二万五千分一地図集成 近畿・中国地方  
熱帯雨林保全アトラス アジア・太平洋編  
熱帯雨林保全アトラス アフリカ編  
明治前期手書き彩色関東実測図 復刻版

古今書院(つづき)

歴史景観の復元(桑原)  
第三世界の開発問題(モリツユ)  
授業のための日本地理(地理教育研究会)  
新版地質図の書き方と読み方(藤田他)1984  
新版地形の教室(中野他)  
新版地下水調査法(山本)1983  
経済原論(武井)  
地理写真(石井)  
都市経済地理学(国松)1969  
新田開発(菊地)  
オーストラリア入門(橋爪)  
都市空間の立体化(戸所)  
地理学文献目録 第9集

共立出版

測量学(大嶋)  
BASICによるコンターマップⅢ立体編  
日本の地質:北海道  
中国  
四国  
九州

宇宙からみた世界の地理  
入門地理情報システム

森北出版

地形情報処理学  
日本地図センター  
数値地図ユーザーズガイド

日本経済新聞社

アンケート調査入門(内田・醍醐)  
社会調査ハンドブック(飽戸)

日本測量協会

現代測量学別巻① 実用地図学

成山堂

高層気象とFAX図の知識(福地)

東京大学出版会

新編 日本の活断層  
火山灰アトラス  
日本の活断層図

東洋書店

日本列島地図の旅(大沼)  
続日本列島地図の旅(大沼)

山川出版

地理用語集(前島他)